

NPO法人かながわ環境カウンセラー協議会

KECA ニュース NO. 47

2012年4月21日 発行

巻頭言

2011年度の活動を振り返って

理事長 木村 信幸

あの東日本大震災の悪夢から1年が経過しました。改めて亡くなられた方々のご冥福をお祈りします。今なお被災地を離れて不自由な生活を強いられている被難者は34万人、復興は未だ2割程度（岩手県）とも報道されています。1日も早い復旧・復興を祈らずにはられません。

さて、間もなく2011年度も終盤を迎えようとしています。活動方針に掲げた主な施策について、個々の活動内容は支部長、委員長初め関係者各位の報告に委ねますが、何れもそれなりに前進があったと確信しています。

会員の動向につき一方では退会があるものの、他方では新規入会者が支部活動、委員会活動に新風を吹き込むケースもあり、活性化に一役買っていることを実感しました。行政や関係団体とのパイプを作り、今では行事に欠かせない団体とのイメージづくりに成功している支部もあります。

小学校を中心とする出前授業では、以前から熱心に取り組み豊富な経験と実績のある会員に多くの依頼が舞い込み、それに伴って協力会員も増え講師予備軍の裾野が拡大しつつあります。それは委員会や支部の枠を越えた活動でもあります。そして、「来年もお願いします」という担任の先生からの言葉は何よりのお褒めの言葉と受け取れます。

ECUと共催した環境教育インストラクターセミナーは第2回を迎え、外部受講者も7割を超えてほぼ定着したものと見なせます。エコ検定受験対策講座は新たな取組を模索しつつあり、これからの取組に注目していただきたいと思います。

一方、エコアクション21普及活動の一旦を担うコンサル事業では、関係者の努力により計画を上回る実績を上げることができました。関係者各位のご協力に感謝します。

又、KECAにとって永年の悲願でもあり、朗報となったのはエコアクション21が初めて神奈川県生活環境の保全等に関する条例（正確には同条例施行規則）に登場したことです。知名度の向上につながるものと期待しています。こういう形で県条例に登場するのは全国でも初めてのケースとなります。行政関係者に改めて謝意を表したいと思います。

昨年夏、福島環境カウンセラー協会（長澤利枝会長）のご協力で有志による福島研修が実現し交流を図ることができましたが、そのご縁で長澤会長に第18回市民環境活動報告会へ

の参加を呼び掛け、東日本大震災をテーマにしたテーブルセッションにゲスト参加していただき再び交流を図ることができました。今後の対外交流の好事例となりました。

その他、ホームページの更新、リーフレットの作成でも前進が見られ、15周年の記念誌発行事業も動き出しました。一步ずつ着実に歩みを進めた1年でした。

間もなく第16回通常総会が開催されます。会員の総意を実現し、期待されるKECAとするためにも是非多数の会員諸兄のご出席をよろしくお願い致します。

支部活動報告

支部活動総括

担当副理事長 高橋 弘二

- 1) 支部集会（定例会）は、情報交換・交流、スキルアップの場であり、外部に向けて市民（子どもを含む）、事業者等の受益者に対する活動を活発に行うことを期待します。
- 2) 支部長・委員長会議の開催：2月17日、KECA事務所、2011年度の活動実績と2012年度の活動計画（案）について
- 3) 3月理事会を県央支部が担当し開催した（3月2日（金）海老名市柏ヶ谷コミセン）。

横浜支部

支部長 原 洋夫

1. 2011年度下期後半の活動

・エコアクション21支部活動は毎月定例会議の前に1時間ほど打ち合わせている。目的は事業者への普及であるが残念ながら今期支部活動による認証登録は今のところない。もっとPRすべくKECAのHPに事務所相談コーナーの設置を掲載することにして準備してきたがそれは2月実現した。

・市民活動の行事として昨年と同じ横浜市新治の森での自然観察会を開催し約20名が参加した。

参加者は会員だが夫妻で参加された方もおり、静かな冬の森の観察や休憩所での紙芝居などもあり楽しい催しであった。

・自己啓発では放射能問題で期の初めごろ樋口会員による「原発の功罪」の講演を拝聴したが更に放射能に関する知識を得るべく立教大学原子力研究所（横須賀市）を見学した。ここは既に約10年前に核燃料は撤去し現在は維持管理の状態だが放射能の話や測定法、野外測定体験など行い有意義であった。訪問記を別に掲載したので参照してください。

2. 今年度活動内容総括

当支部は月例会議を原則として毎月第4木曜日開催することになっています。場所は桜木町の横浜市市民支援センターである。最近はこの会場を確保するのに競争が激しく苦労しているが、松永会員のご協力で何とか続けている。主要議題は理事会・委員会の報告、支部活動の企画から実行までの協議、KECAイベントへの参加員調整等である。また各会員からの環境情報の紹介も多様で参考になっている。毎回出席者は15~20名であるが支部会員は54名おりもっと参加してほしいものである。

横須賀三浦支部

支部長 高橋 弘二

- i) 横須賀市が来年度から「里山的環境づくり」に取り組むにあたり、自然環境分野で活動している市民団体に呼びかけて、意見交換・交流会を開催したので参加した(3月5日、横須賀市役所)。
- ii) 県道久里浜田浦線の工事で消滅する「トウキョウサンショウウオ産卵地」を調査、卵塊を採取し自家飼育を開始した(2月)。
- iii) 昨年、環境学習授業と、川の上流部での体験学習を実施した市立J小学校から(3年生)、発表会の招待を受け出席した(3月16日)。

湘南支部

支部長 西村堅一郎

湘南支部会員数は死亡、退会、休会等で2010年4月には21名でしたが、2011年4月は16名、そして現在は13名です。

毎月最終金曜日の午後6時30分から「藤沢市民活動推進センター」で定例的な集会・会議を開催しています。理事会等の報告、環境フェアについて、また支部各会員個人の環境活動と支部活動について意見を交換しています。特に会員個人の教育授業の内容は例会で報告されて他の人の環境活動の参考としています。時には道具を借りる場合があります。

○ 2011年度の活動結果

茅ヶ崎環境フェアへの参加

会員個人の環境教育活動が多く行われました。実施例を挙げると次の通りです。

嶋田 小学生、中学生、大学生、一般への出前授業	18回	対象	449名
井上・吉池 鎌倉市内部監査員・外部監査員教育		対象	30名
小山 市民講座など		対象	16名
西村 相模原市組合		対象	25名

本KECAニュースに小山さんの市民講座の様子が掲載されています。

○ 2012年の活動

今まで通りの活動は継続します。藤沢・茅ヶ崎の環境フェアへの参加が主体になりますが、湘南支部独自に市民を対象とした勉強会を開催したいと思っています。また、地域自治体・他団体との協働について話し合いを行い、どのような形で推進するかを決めたいと思っています。ただし、これも個人の活動になりますが、もともと環境カウンセラーになった人は他の団体・会社・組織で活動してきた方々なので、その活動を支援するのがKECAではないかと思っています。

最後に会員を増やす方策も支部内で検討したいと思います。

県央支部

支部長 古川 輝夫

当支部における2011年12月から2012年3月までの活動について報告致します。

1. 定例会議と理事会の協力

隔月定例的に支部会議を開催し、KECA活動の情報提供と会員同志の情報交換とより深めるため下記の通り実施しました。

12月23日(日)、3月18日(日)いずれも17:00～19:00
えびな市民活動サポートセンターで開催、参加者は多いときは11名(当支部会員の80%が参加)でした。

なお、恒例により12月23日は忘年会が盛大に駅前の居酒屋で行なわれました。

3月2日(金)3月度理事会は支部持ち回り規定により県央支部が担当しました。柏ヶ谷コミュニティセンター会議室で開催され、15名の理事が出席されました。

当日は、理事会前に地元の海老名市から岡田環境政策課長、吉野主任主事が、海老名市環境政策課事業内容と平成23年度及び24年度えびなっ子サマースクールについて講義していただきました。理事会終了後、さがみ野駅さがみ野ライフ内 仕立て屋で懇親会を和やかな雰囲気の中で盛大に行なわれました。

3月18日(日)の定例会議は議題として審議事項は2012年度県央支部活動計画を議論し、当支部の活動計画を原案通り決定しました。

報告事項は①(株)山武伊勢原工場視察②3月度理事会③平成23年度及び24年度えびなっ子サマースクール④海老名市環境政策課事業内容⑤カーボンマネジャー資格検討状況⑥海老名市「中小企業振興支援事業」の概要⑦伊勢原市環境学習指導員登録⑧環境カウンセラーとしての行動経過概略(瀧会員)及び情報交換でした。

2. 環境防災モデル工場視察(勉強会)

省エネ、防災対策で先進的なモデル会社である株式会社山武伊勢原工場の視察を2月10日(金)に参加者12名で行なわれました。

横浜支部、川崎支部からわざわざ当地まで4名の方にお越しいただきました。

視察内容については、詳しい内容は会員の上野さんの記事をまとめていただきました。

3. その他

海老名市、綾瀬市、伊勢原市と情報交換を行いました。

綾瀬市環境対策審議会、伊勢原市環境対策審議会の委員として参加しました。

EA21 普及説明会及びコンサルを実施しました。

EA21 審査人研修会の参加しました。

相模原支部

支部長 福田 昭三

2011年3月11日、東北地方を中心に大々的な、かつてなかった広範囲にわたる甚大な被害をもたらした東日本大震災、その被災地では一年後の現在（いま）、毎日毎日大人は大人で子どもは子どもで、以前の生活のそれを取り戻すべく一生懸命努力している。テレビや新聞等の視線とは別な場所で、古里の変化そして心の変化等問題は大きい。

私共相模原支部は退会者が多く発生し支部活動が低下する懸念もありましたが、事業計画にそって相模原市立環境情報センターとの協働事業は前年にもまして多くの参加者があり、積み重ねてきた実績を感じています。新年度はさらに体制を改正して対応したく思っています。特に政令都市相模原市には、三つの区役所が出来ましたが、今後も行政・事業者・市民と共同で一つでも多くの協働事業が出来るように、又、相模原市立環境情報センターとの協働事業も大きく推進いたしたく思っています。

相模原市内の施設には、幾多の被害地の方々が避難しています。今年はこれらの方々との交流など、少しでも復興の支援が出来ればと思っています。

西湘支部

支部長 小林 嘉博

— 足柄古道① 「地藏堂~足柄峠」の紹介 —

2012年3月13日（火）朝快晴、夕方雲厚し

箱根登山鉄道終点大雄山駅前（バス停：関本、標高約50m）から箱根登山バスにて地藏堂（標高約430m）に到着。ただちに地藏堂脇の県道を上りはじめて40分、見晴し台（標高約645m）、見渡せば見晴し台に恥じない展望が開けています。このバス停を過ぎて直ぐに左に「足柄古道」の入り口表示があります。道幅1m弱の良く手入れされた石畳の緩い上り道が続きます。明るく左側（南）が開けた道を独占して気分よく20分ほどの歩行で県道上の足柄峠（標高759m）に到着します。

峠に隣接した足柄公園（標高約780m）から富士山を望みましたが、生憎、厚い雲にす

っぼりと隠されて何も見えませんでした。天候さえよければ素晴らしい景色がある筈ですが、残念無念。

この足柄公園を15分ほど県道を神奈川県側に下ると万葉公園(標高770m)があります。万葉集に詠み込まれた、山吹、けやき、ぬるで、山桜、からたち、まゆみ、あせび、などの樹木が植えられていて、樹木に因んだ和歌が石碑や木製の表示板に書かれています。

113年ヤマトタケルが東征の帰りに通った、1012年菅原孝標の女が更科日記に記載した、1590年徳川家康がここを通過して小田原攻めに加わったなど歴史の節目の記録にもこの足柄峠は存在を示しています。

*文中に示した標高は、腕時計に組込まれた簡易な高度計で測定しましたので厳密な値ではありません。



委員会活動報告

環境教育委員会

委員長 高橋 弘二

委員会：8月23日（火）、9月26日（月）、10月25日（火）、18時30分～20時30分

i) 23年度環境教育インストラクター養成セミナー（神奈川）の開催

2月25日（土）10時～17時、26日（日）10時～15時30分の2日間、横浜シルクセンター地下会議室で開催した。参加者は17名（KECA会員 名）と少なかったが、盛岡市から参加された熱心な女性もいた。セミナーは講義より実践を重視し、3グループに分かれて参加者を生徒（受講者）に見立てて模擬授業を行ってもらい、アドバイス・意見交換を行った。

修了者は、環境カウンセラー全国連合会（ECU）に所定の書類を揃えて申請することにより、「環境教育インストラクター」の認定証が交付される。

ii) 第18回市民環境活動報告会

11ページの報告参照

iii) エコ検定

エコ検定受験対策講座の開催をめざし、まずKECA会員のエコ検定合格者の把握、会員のエコ検定に対する関心度などについてのアンケートを行った（3月16日）。



岡本講師の名講義



ワークショップ風景

化学物質委員会

委員長 近藤 勝養

化学物質委員会は私たちの生活に必須であるが、取扱いにより大きな悪影響を及ぼす可能性のある化学物質の性質を市民、企業の方が理解できるよう、リスクコミュニケーションを向上させるべく活動してきました。数年前には、化学物質を取り扱う企業と市民とのコミュ

ニケーションとして「環境ダイアログ」を実施しました。また、神奈川県 of 化学物質の取扱量や環境への放出量を整理して当協議会のホームページに掲載しました。

しかし、ここ2、3年は参加会員の減少から十分な活動ができませんでした。2011年度には有力な会員の参加もあり、神奈川県 of 化学物質の動向を掲載したHPを更新することが出来ました。また、2011年12月3日に川崎市で開催された「RC：レスポンシブル・ケア：化学企業が化学物質の取扱に開発から廃棄まで配慮する活動の川崎地区地域対話」に4名の会員が参加し、企業や地域住民とのコミュニケーションを行いました。来年度は2ヵ月毎の県民センターでの定期会合を実施し、環境ダイアログ開催に挑戦すると共に地域に役立つ特にEA21に登録した中小企業に容易に利用できる化学物質関連の情報をHPを通じて発信する予定です。会員の皆様の積極的な参加やご意見を期待します。

環境管理委員会

委員長 照沼 俊夫

過去に断片的ではありますが報告しているのですが、重複するものもありますが、2011年度について年間を通した状況について報告します。

環境管理委員会の活動による収入が、KECAのボランティア活動の原資となっているわけですが、KECAは全体としてぎりぎりの状態で走っています。法人として事務所を持つと言うことは大事なことではありますが、会費収入と環境管理委員会の収入を合わせて漸く事務所経費が維持出来ているという現状は一考を要するでしょう。KECAの財政の現状は、一見間に合っているように見えますが、環境管理委員会の2009年度の一過性の収入増の余韻があつてのことであつて、環境管理委員会が精一杯に頑張っても経常収支は良くないので、どう支えるかを考えるべき時に来ています。環境管理委員会としては従前通りの成果が得られるように頑張るのみですが、少なくとも事務所経費を削減する方策を早急に考える必要があります。

1. 新規のコンサル案件は、毎月実施のセミナー及び無料出張セミナーを中心にして、EA21の普及啓蒙を図りました。その結果、予算10件に対し、10件の指導申し込みを受けましたが、年度末に漸く予算を達成したと言うのが実情です。しかも、ユーロ危機や円高の影響で、セミナーへの参加企業が減少傾向にあること、参加企業の意気込みが低下していることを重く受け止める必要があります。

2. 自治体イニシアティブ&グリーン化プログラムは、昨年並みでした。プロジェクト数は3本ですが、トータルの参加企業は21社で、うち1社が担当者退社のため脱落しました。従つて20社が認証取得に向け、指導完了の局面を迎えつつありますが、最後まで到達することを期待するのみです。全体としては、こちらも減少傾向です。特に自治体イニシアティブについて鋭意営業展開していますが、2011年度ですら開催出来るか否かの限界にあつたことを重く受け止める必要があります。

3. 2011年度に新しく始めた事業として、中央会の専門家派遣事業に呼応した集合指導事業（中央会プロジェクト）（割引付き）があります。こちらには5社の参加があり、指導

完了しました。2012年度も事業展開できると良いと思っておりますが、開催できるかは疑問が残ります。鋭意営業展開するのみです。

4. 指導教材の2009年版への改定（製造業・一般事業者以外）は、完了しました。会員審査人へのセミナー及び事業者へのセミナーの開催は検討中です。

5. 審査人研修会は、予定通り2回実施しました。参加者が若干低調なのが残念ですが、審査人としてもコンサルタントとしても有効な知見が得られることを受け合います。また研修会での討論は、審査人としてもコンサルタントとしても、独善を排し、『人の振り見て我が振り直す』と言う意味でも重要な機能を果たしていますので、積極的に参加して研鑽を積んで下さい。

6. 文書管理については、事務担当の手を煩わせて、トライアルに入りました。結果を注視しましょう。

会員の投稿

株式会社山武伊勢原工場見学

県央支部 上野 潤一

1973年設立のこの工場では、ビルや工業プラントの中央監視及び自動制御システム、そしてこれらに使われる小型センサ等が作られています。

この工場のエネルギーは電力が主体で一部の給湯にガスが使われており、とてもユニークな対策が実施されています。

電力のピークカット対策としては、電力デマンドと空調コンプレッサの台数削減があります。電力デマンドでは、30分間の電力量が規定値を超える可能性があるため、未然に電力負荷削減の程度に応じて優先順位を判断し自動的に機器や設備を停止します。

又、機器の能力を強制的に落とす省エネ策では、冷媒と外気との熱交換をする空調コンプレッサの台数を減らす様に機器の設定を変更しています。この結果、室内側で設定温度を変更してもそれに見合った熱が供給されないため、所定以上の暖房/冷房ができず省エネになります。

日常の電力負荷低減は、照明で実施しています。この工場では全ての蛍光灯器具に「ひもスイッチ」を取り付け、不要時・不在時のこまめな消灯を徹底しています。

更に、蛍光灯器具を金属光沢のある高反射板付きのHf型に逐次置き換えています。この変更で同じ明るさで、蛍光灯2本が1本に削減できました。

その他の省エネ対策としては、屋上緑化、ジャイロミル型風車による風力発電、太陽光パネルによる発電があります。この自然エネルギーを利用した電力は、災害時のバックアップとしても有効です。

地震対策として特に印象的だったのは、製造現場の作業台の固定方法です。天井面に固定され直下1m程に縦横に張り巡らされた鉄パイプです。作業台は頻繁にレイアウト変更があり床に固定するのは不向きなので、鉄パイプとベルトで締めて固定しています。とても簡単で実用的な方法だと思います。

今回、工場の説明・案内をしていただいた同社伊勢原工場吉田弘好さんに感謝いたします。



第18回市民環境活動報告会を開催して

市民環境活動報告会実行委員 岡本 正義
(KECA 環境教育委員会副委員長)

3月には子どものケアシートを、4月にはサッカーボールを届け、5月には笑顔を咲かせるひまわりの種を届け、植えました。かながわ環境カウンセラー協議会（KECA）の川村さんが、東日本大震災で被災した子どもたちへの心の支援活動をスピーディーに、タイムリーに実施したことを報告しました。

掲題の報告会が平成24年3月3日に82名の参加者を集め、県民センターで開催されました。気づきから行動の環（わ）をスローガンに丹沢大山自然再生委員会の木平委員長が基調講演を、続いて東日本大震災の復興支援、節電報告、NO₂測定、自然観察活動など7件の口頭発表がありました。



初の試み・グループディスカッション

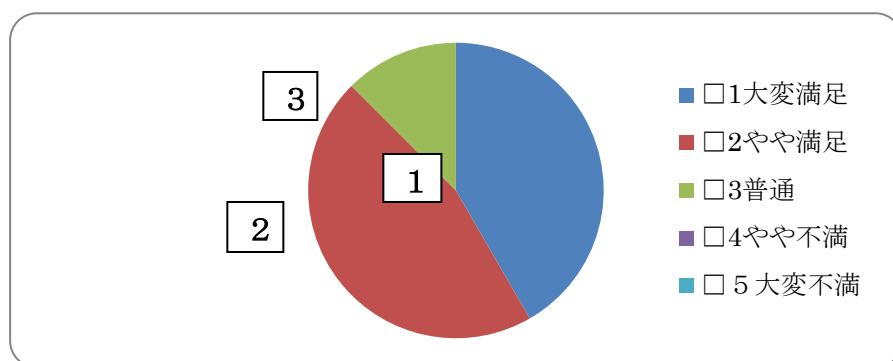
今年は新しい試みとして、上記4テーマでテーブルセッションを実施しました。参加者が関心のあるテーマに自由に参加し、意見交換をすることにし、各テーブル10～20名が参加しました。お互いの意見、活動を評価、尊重し、参加者同士の繋がりを深めることを目標にしました。

アンケート結果にあるように参加者には好評でありましたが、一部のテーマでは必ずしも満足いく展開が出来なかったようです。今回の反省を活かして次回は更に参加者に満足して頂ける報告会にしていきたいと考えています。

最後にKECA理事長、副理事長をはじめ多くの会員の方々にご支援を頂きました。お蔭さまでスムーズな、活発な報告会になりました。ありがとうございました。

テーブルセッションに参加された感想（どれか1つ）

□1 大変満足	□2 やや満足	□3 普通	□4 やや不満	□5 大変不満	計
10	11	3	0	0	24





震災支援の発表（川村氏）

会場風景（福島EC協会長澤会長も参加）

立教大学原子力研究所を見学

横浜支部 杉浦 勲

横浜支部では会員の自己啓発活動の取り組みとして3月14日(水)、横須賀市にある立教大学原子力研究所を訪問し、原子力施設見学、放射線測定など貴重な体験をとおして原子力について学びました。

原子力研究所見学会は他の支部員にも参加者を募った結果、横浜支部員13人、川崎支部2人、県央支部3人、横須賀三浦支部1人の計19人が参加、環境カウンセラーとしての立場で放射能問題、エネルギー問題などについて学習しました。



19人が原研を訪れました

立教大学原子力研究所は1957年「原子力の平和利用目的」のために民間の本格的な研究用原子炉の第1号として設立され、1961年に原子炉が初臨界に達しました。その後40年間にわたり全国の大学、研究所、産業界などに利用され医学、薬学、農学、工学、考古学、環境など科学技術の発展に貢献してきました。

しかし現在は、さまざまな理由から2001年稼働

を停止し、燃料棒も撤去した後、既に海外に搬出済みとなっています。現在は文科省保安管理下で施設の解体、撤去、更地化の状況が整うまで、安全第一に保管管理を続けている状況です。

同研究所はJR逗子駅から約40分バスに乗り、その後徒歩10分の、横須賀市長坂の景観の素晴らしい海辺にありました。見学会は次の4つのプログラムで進められました。



実験をとおりて学びました

1) 講義：原子力の基本的メカニズム、原子力研究所の歴史、平和利用に向けた研究の成果そして、原子力利用の問題と今後の課題など、タイムリーなテーマにより、私たちに分かり易く説明して戴きました。

2) 実験

放射線の被曝強度と距離の関係、また遮断材の厚さや遮断材の材質の変化による被曝減衰等について実験を見せて戴きました。

3) 原子炉見学

稼働時には100kw出力相当の廃原子炉を見学、炉心とそこに降ろす制御棒挿入孔等の説明を受けました。

4) 野外測定

放射能線測定器により被曝量を実測しました。ホットスポットでは約1 μ シーベルト/Hの測針を見て、表情を硬くする姿が見受けられました。

約2時間という限られた時間でしたが、皆さん原子炉本体に手に触れ、また放射線測定を初めて行うなど、貴重な体験をすると共に研究所の先生方の分かり易い説明により原子力の知見を深めることができました。

お忙しい中、KECAのために懇切、丁寧にご説明して戴いた研究所の先生方に深く感謝したいと思います。

なお、今回の見学会は原洋夫横浜支部長の高校同級生が、研究所の元所長を勤められていたご縁で実現したものです。



屋外センサーについて説明を受けました

～環境市民講座 2011「エコシートから学ぶ省エネなくらし」の講師を担当して～

湘南支部 小山 稔

表記環境市民講座が2011年12月10日(土)午後 茅ヶ崎市役所分庁舎5階AB会議室に於いて、環境市民会議「ちがさきエコワーク」環境まちづくり部会の主催で開催されました。本講座の開催は3月の予定でしたが、東日本大震災の影響で年末の12月の開催となりました。第1部は、筆者(環境カウンセラー・エコピープル・環境まちづくり部会員)

の「3. 11以降に何が変わったか？」という講演と茅ヶ崎市環境政策課職員の茅ヶ崎市の地球温暖化対策や夏に実施した節電キャンペーンの結果報告、第2部は省エネについてのワークショップです。

第1部の講演で、私は、東日本大震災によって人々が自然現象（その威力）に対する科学技術の限界を知ったこと、福島第一原発事故から原子力発電の安全神話が崩れ、放射性物質汚染という重大な環境汚染が起こったことなどについて、メディア報道・写真、日経BP社のアンケート調査結果などを使って紹介し、さらに、国のエネルギー政策、原子力政策、地球温暖化対策などの見直しが始まっていることなどを国家戦略室の「エネルギー・環境会議」ほかの様々な資料で紹介し、これからわたし達はどうか行動したらよいかなどについての話題提供を行いました。

第2部ワークショップでは、身近な問題として環境まちづくり部会員自らが実際に節電キャンペーンで体験した節電結果や4ヶ月間にわたってエコシート（茅ヶ崎版環境家計簿）を使ってエネルギー消費量から算出したCO₂の排出量の紹介、さらにそれに基づいて「スマートな省エネなくらし」についての推進・啓発の呼びかけを行ないました。ワークショップの参加者には、5つのグループに分かれてもらい、電気、ガス、ガソリンなどの領収書からエネルギー消費量をエコシートに転記してもらってCO₂排出量を計算したり、手作りの省エネ行動カードを使ったクイズに答えてもらい、省エネ行動とCO₂排出量の関係を知ってもらいました。クイズは参加者にとっては、なかなか難しかったようでどのグループも苦戦をしていましたが、暮らしの中の省エネ行動を考える良いきっかけになったのではないかと思います。反省点は内容を少し欲張りすぎたため、予定時間の2時間半をかなりオーバーしてしまったことです。



ワークショップ風景

まとめ

- 持続可能な社会(地球環境)のためにスマートライフ(Smart life)のすすめ
- 賢い(スマート)ほどほどの暮らしを心がけよう！
 - ・省エネ・節電は、まずできることから始め無理をしないこと
 - ・ただし、無駄にエネルギーを使わないこと
(省エネ製品や設備の導入は効果が大ですが、お金がかかります)
 - ・自分だけは快適な暮らしをしたいという考え方も増えること (「エコ」から「エコ」の暮らしへ)
- ★ エコシート(環境家計簿)で暮らし方を見直しましょう ★
- ◆ 地球の恵みを大切にしましょう！
(空気、水、食料、資源、エネルギーなど)

本日は環境市民講座にご参加いただきありがとうございました。

川崎から里山便り 1

川崎支部 照沼 俊夫

川崎市は、多摩川沿いに北西から南東に伸びた細長い街である。その昔東海道五十三次の二番目の宿場として、また川崎大師の門前町として栄えた。また近代・現代に下っては、湾岸部を中心に京浜工業地帯の一翼を担い、日本の成長と産業をさせる重工業地帯となった。

多摩川の東京湾川口より、鶴川街道（19号線）（東京都稲城市）



が多摩川を西から東横断する多摩川原橋まで多摩川の西側の土手を歩くと、川崎市の東側を南から北へ歩いたことになる。この北端部分が、川崎市多摩区である。

鶴川街道（19号線）を西へ行き、程なく19号線から分岐する18号線を国士舘大学まで歩くと、川崎市麻生区の北側を西へ歩いたことになる。19号線の南側に東京よみうりカントリークラブがあって、その南側の縁が多摩区、麻生区と東京都稲城市の境になる。

この川崎市の北部の地域、多摩区、麻生区（高津区、宮前区）辺りが、多摩丘陵の南の裾と言われていて、ついこの間までは鬱蒼とした里山が広がっていた。この地域の特産品は、黒川炭と禅寺丸柿であり、山百合の宝庫であった。

そのような里山の中を1927年4月1日に、小田急線が小田原、箱根に向け営業を開始した。初夏に箱根に保養に行く人々は多摩川を越えるとふくよかな山百合の香りを楽しんだと言われている。

そして、1955年設立の日本住宅公団による団地建設（1960年）を皮切りに急速に住宅地整備が進み、一気に里山は住宅に変貌し、地域内の人口は急増した。今日でも川崎市は、非県庁所在地として唯一人口100万人を超えている。今や往時の里山は寺社林や公園として僅かにその面影を残しているに過ぎず、南斜面を好む山百合も生息地を奪われ姿を消した。

そのような中で、僅かに残った里山を往時の景観の戻そうと始めたのが里山維持保全活動で、2000年であった。（つづく）

2012年市民活動フェア

3月10日（土）～3月11日（日）午前10時～午後4時

於かながわ県民センター
相模原支部 植村 國男

かながわ県民活動サポートセンターの会館記念行事として始まったもので本年は15回目でした。

内容はフリーマーケットあり、展示あり、いろいろな分野の活動が紹介されています。環境保全の団体に限定されません。



参加者は主に日頃サポートセンターの会議室やフリースペースを活用されている団体のみなさんです。本館のほぼ全館を使用して二日間開催されました

KECAには結構広いスペースを借りて以下の展示とご案内は充実することが出来ました。

-
- ① さんごとほら貝(嶋田様提供、ご案内)
 - ② 野鳥の鳴き声を聴いてみよう(大中様提供、ご案内)
 - ③ LED電球など((嶋田様提供、ご案内)
 - ④ 地球温暖化のパネル(JCCCA借用)
 - ⑤ リユース牛乳びん(東洋ガラス、吉野様提供)
 - ⑥ 環境カウンセラー活動、KECA活動のパネル

一日目は参加展示している方々で賑わいました

二日目は午後2時46分に会場の全員で黙とうを捧げてから 午後3時で終了しました。その終了の間際に「私たちも環境問題に取り組んでいる」という参加団体のみなさんがブースに大挙来場されて交流出来たのが印象的でした。全般に一般市民へのPRは不十分だったようにみられますが、参加した活動グループとの交流に意義があることとおもいます。

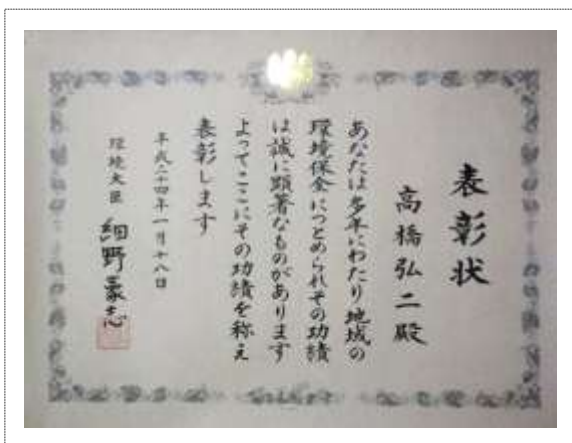
参加者は少なく残念ですがKECAの存在をPRできたように思います。

参加支援して戴いたみなさまごくろうさまでした。帰りに実行委員会の方とお話ししました。来年もよろしく願いますとのことです。来年は参加団体にもっと興味をもってもらって交流を深めるやりかたでおつきあいできたらとおもいます。

会員動向

高橋副理事長が「環境大臣賞・地域環境保全功労賞」を受賞

KECAで副理事長のほか、環境教育委員長、横須賀三浦支部長として活動している高橋弘二氏は、去る1月18日（水）グランドアーク半蔵門において、20数年にわたる地元横須賀、三浦半島における環境保全・環境教育活動などの実績が評価されて、環境大臣表彰「地域環境保全功労賞」を受賞されました。おめでとうございます。活動実績は下記の通り。（環境省ホームページより）



高山環境政務官と

1. 地域活動

- (1) 横須賀「水と環境」研究会創立以来、月2回（原則）横須賀を中心に三浦半島を流れる中小河川を歩き、水質・水生生物・水辺環境調査を行い、調査結果を市民へ広報・周知、行政への保全・再生・改善提案・提言を行う（1988～現在）。
- (2) 横須賀市内の流域人口の多い平作川、竹川、野比川について、調査結果をまとめた「川のかんきょうお知らせ板」（A3 カラコト）20～30枚作成し、川の欄干・フェンスに設置、川の環境現況を知らせ、啓発を行う（半年取替、2005～現在）。
- (3) 水質・水生生物調査の結果を研究会独自の評価法により、わかりやすい色別ラジの調査マップをつくり、環境フォーラム・シンポジウムなどで展示・説明。この水質評価法が着目され、環境省の「水環境健全性指標検討会」「湧水復活・再生支援検討会」に市民活動団体の代表として参画した。現在も”みずしるべ”調査の試行などに協力している。（1993～現在）
- (4) 毎年、環境省・全国水生生物調査に協力、三浦半島の河川の水生生物調査（年10数回、延べ参加者約200名）を実施（1995～現在）
- (5) ”すかつ子セミナー”を創設・運営、自ら「自然系A（川）コース」「自然系D（海・山）コース」を担当、修生延べ550人（2002～現在）。

上記の活動を企画・実践・主導し、会報「横須賀「水と環境」研究会だより（220号、毎月発行、350部）作成・広報啓発

2. 環境教育・環境学習

- (1) 市内小中学校で「身近な水」「よこすかの川」等をテーマに出前授業、野外で水質・水生生物調査指導：年10～15学級（1995～現在）
- (2) 生協や他市民団体、教職員研究会などからの依頼で「水環境」に関するセミナー講師・川の案内解説：年2～5回（1993～現在）
- (3) かながわ環境カウンセラー協議会で「環境教育インストラクター養成講座」「総合研修会」の企画・運営、講師（2009～現在）

3. 委員会活動（○は会長、●は副会長）

- (1) 横須賀市：環境審議会、●地球温暖化対策地域協議会、○環境教育・環境学習ネットワーク会議、港湾環境検討会他
- (2) 神奈川県：水源環境保全・再生かながわ県民会議、○めぐりの森利活用推進会議、三浦半島コミュニティ連絡会他

新入会員の自己紹介

○武内 健三さん

KECAに入会させていただきまして、ありがとうございます。

40年近く、電線製造会社に勤務し、化学材料の開発、電線・ケーブルの開発、環境管理などの業務に携わってきました。会社を卒業したら、以前は趣味のヴァイオリン製作に日夜没頭したいと思っていました。

まじかに卒業が近づいてくると、16年間にわたる環境保全活動の実践経験をもとに、世の中に少しでも役に立ちたいと思ってきました。

現在、日本電線工業会の化学物質対応小委員会の委員として、主に中小企業の会員向けに、制定した製品含有化学物質管理ガイダンスの普及と教育を行っています。

KECAにおいても化学物質委員会に所属し、主に中小企業向けに化学物質に関する情報発信などに取り組んで行きたいと思っています。さらにEA21審査人資格認定も目指していますので、よろしくご指導ご鞭撻をお願いします。

○壁谷 利秀さん

昨年8月に入会しました、相模原市在住の『壁谷 利秀 (64)』です。

本会入会の動機は、以前から神奈川県を中心にボランティア活動（小・中学校生徒や県民を対象にした、地球温暖化防止の環境教育を実施するNPO団体）に参加していましたが、昨年5月に40年間勤めた建築設備会社を退職したことや東日本大震災の甚大な被害状況を見て、何か自分で少しでも役に立つ更なるボランティア活動への参画を決め、いろいろな団体からKECAに入会致しました。また、東日本大震災による原発事故が今後のエネルギー政策に大きく関わってくると思われますので、エネルギー委員会にも参加し広く情報収集に努めていきたいと思っています。

以前から参画していますNPO法人『アース・エコ』の紹介も少しさせていただきます。

小学校・中学校や地域のイベントなどに出向き、主に地球温暖化防止を中心にボランティアで環境教育を行っています。学校への出前授業では、子ども達に現状の地球環境を出来るだけ正確に伝え、省エネ（節電・節水）・自然エネルギーの実験、エコ探しゲームや自然エネルギー利用の模型を通して、各自がすぐ取り組めるテーマを決め、そのテーマに向け具体的な目標を立て、結果を振り返る「PDCA」を回すプログラムになっています。環境教育を通して、課題発見の力、「計画」「実践」「確認」「改善」する力の涵養を心掛けています。しかし、全ての小学校・中学校で実施するわけではありません。学校や担当教員の熱意によって実施の可否が決まるのが現実です。従って成果は、学校のフォローの有無によって大きく差がついているのが現状です。しかし、現状の地球温暖化をほっておく訳にはいきません。「鉄は熱いうちに打て」の諺ではありませんが、頭が柔軟で心が無垢な子ども達に、早い段階（小学校中学年以降）から環境教育を行うことが、環境への関心を引き出し、これからの彼らの生活の中で役立つことを期待し、実施しているNPO団体です。

○石黒 芳樹さん

皆様、2010年に入会した石黒芳樹と申します。何卒よろしくお願い申し上げます。私は、企業内にて、マネジメントシステム事務局の責任者を仰せつかっている関係で、人材育成に関する分野を得意としています。

ISO9001は、今後、品質マネジメントシステムから、環境をも包含した、ビジネスマネジメントシステムに移行しようとしています。こういう中においては、ISO(マネジメントシステム)のみならず、環境、情報システム、営業、財務諸表の見方など、様々な視点が必要になります。

こういった様々な視点を持った人材を育成して行くことが、これからの環境カウンセラーの任務だと考えています。

一方で、RoHS指令等、ヨーロッパをはじめとする各国では、化学物質の規制が厳しくなってきました。こういった規制に対し、どう対処してゆけばよいのか、適切にアドバイスできること、これも、重要な視点だと考えます。

これからの人材像は、幅広く知識を持つことと、その中で一点深いものを持つことができる人材だと考えます。そういう人材育成ができるように頑張りたいと思います。

事務局便り

『事務所を活用した会員同志の仲間づくり』

事務局長 河野 健三

私の事務局便りは3回目を数えます。KECA ニュース 45号では『誰もが集える事務所を目指して』、46号では『気軽に事務所を訪ねて下さい』と題してお話ししてきました。今回は『事務所を活用した会員同志の仲間づくり』について事務所開設の経緯を含めてお話ししたいと思います。

現在の KECA 事務所は桜木町にある横浜ワールドポーターズに2006年10月に開設されました。横浜ワールドポーターズは桜木町駅から汽車路を渡った、みなとみらい新港地区にあります。

(地図は KECA のホームページ <http://www1a.biglobe.ne.jp/hama37keca/>のアクセス欄をご覧ください)

それまでは3年前に亡くなられた小竹さんの自宅に事務所をお願いしていましたが、KECAの発展を願った諸先輩の努力により現在の場所に開設されたのです。

小竹さんは KECA ニュース 42号でご紹介しましたが、KECA 創立以来の会員で現在の KECA の財政基盤となっているエコアクション21の普及に努められ、事務所が桜木町の一等地に構えられたのも亡き小竹さんのご尽力によるところが大きいと思います。

先輩から受け継いだ事務所を活用して会員同志の交流を深めましょう。

長年 KECA に在籍していて、まだ事務所を知らない会員も多数いらっしゃると思います。2012年度に新たに入会された会員の方で入会前に事務所を訪ねられ、KECA の活動状況をある程度知った上で入会された方もおられます。

交流を深めることによりそれが結果的に KECA の発展に繋がっていくと思います。通常は平日の 10:30~16:30 は事務所当番がおりますので気軽に訪ねてください。尚、Yahoo!カレンダーに当番担当者名と主要行事を記入しています。Yahoo!カレンダーへのアクセスをご希望の方は事務所へメールしてください。アクセス方法をお知らせします。

第 16 回 KECA 通常総会開催のお知らせ

2012年度 第16回 KECA 通常総会は5月19日(土)、13時~、みなとみらい地区にある「波止場会館」で開催されます。

尚、当日の11時~、同じ場所で新入会員及び希望者に対してKECAの組織、活動紹介などについてのオリエンテーションを行います。奮ってご参加下さい。

発行 特定非営利活動法人 かながわ環境カウンセラー協議会 (KECA)

〒231-0001 横浜市中区新港2-2-1

横浜ワールドポーターズ6F NPOスクエア内

理事長 木村 信幸

事務局長 河野 健三

TEL : 045-226-5822 FAX : 045-226-5825

E-Mail : 37keca@kke.biglobe.ne.jp

URL : <http://www1a.biglobe.ne.jp/hama37keca/>

年会費振込先 : ゆうちょ銀行 口座番号 : 00260-9-24711